

# EAT-10 と 聖隷式 使い分け・運用固定シート

初回の拾い上げ、経時変化の共有、陽性後の動きを 1 枚でそろえるための院内用シートです。

部署

作成日

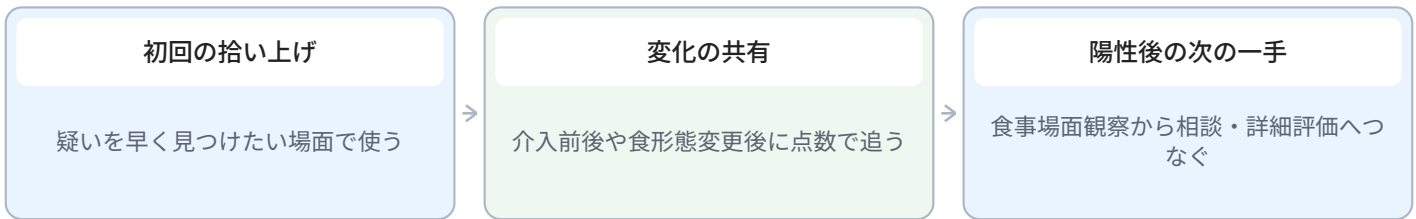
作成者

見直し日

## 1. まず違いをそろえる

比較軸	EAT-10	聖隷式	判断メモ
主な役割	症状負荷を点数化	初回の疑いを拾う	初回か、再評価かで選ぶ
向くタイミング	介入前後 / 食形態変更後	入院時 / 肺炎後 / 変化時	入口は聖隷式、追跡は EAT-10
陽性の考え方	3 点以上を目安	A あり方式 or スコア化方式	どちらも施設で 1 つに固定する
よくある失敗	点数だけで判断する	判定方式が人でブレる	陽性後の次の一手まで決めておく

## 2. 選び方の最小フロー



## 3. 自施設の運用固定

項目	決め方の例	うちのルール
初回に使う質問紙	例：入院時は聖隷式	例：入院時・肺炎後は 聖隷式 を実施
再評価に使う質問紙	例：変化確認は EAT-10	例：介入前後と食形態変更後に EAT-10 を実施
聖隷式の陽性ルール	例：A が 1 つでも疑いあり	例：A あり方式で統一
EAT-10 の基準	例：3 点以上を目安	例：3 点以上で観察・再確認へ進む
陽性後の次の一手	例：食事場面観察 → 相談	例：同日中に食事場面観察、必要時に ST へ相談
記録場所 / 共有先	例：カンファ用紙・電子カルテ	例：記録テンプレへ転記し、カンファで共有

## 4. メモ / 見直しポイント